



— 第37回 —

弓道を学ぶことは人生を学ぶこと

射即人生

岸 恵理子 さん

PROFILE

十和田市出身。高校から弓道を始める。弓道教士六段。
昨年9月に行われた第47回全日本女子弓道選手権大会
で、決勝に進出（上位20人）し、優秀賞を受賞した。
十和田弓道会（小川利雄会長）に所属し、自身の鍛錬を
積みながら、後進の指導にも励んでいる。

静寂のとき。弓を引き絞り、鋭い音を立てて、そのエネルギーが弓から矢へ継がれ、静止不動の的へと向かう。

「弓を射る時の姿を見れば、素人でも上手下手が分かりますよ。その人の人格が出る、それが弓道です」と、岸さんは言います。

弓道は、的に矢をあてるということに加えて、その人の品位や風格を表す『射品』『射格』も大切。

そのため、弓を射る時には、淡々とした平常心が求められますが、岸さんは「大きな大会の前には、ドキドキして、心臓が口から出そうになる」と胸の内を明かしてくれました。「だからライバルは自分なんです。忘れてしまう自分。逃げようとする自分」と話す岸さんからは、普段の生活から自分を律して、弓道に臨む姿が見えます。

十和田市では、高校時代にせっかく弓道を始めても続ける人が少ないのが現状。岸さんと十和田弓道会の皆さんは「社会人になっても、ぜひ続けてほしい」と話します。そのきっかけ作りのために、7月に『弓道経験者の集い』を開く予定です。

「弓道は、生涯をかけて向き合える、素晴らしい趣味だと思います。その人に合った強さの弓を使えば、高齢になってもできます。天候に左右されることもなく、練習時間も自

分で調整できる。ある程度、弓を引けるようになったら、自由に自身を向上させていける。精神的に豊かになれるスポーツなんです」
そう弓道の魅力を話す岸さんの目の目標は、全日本選手権大会でまだ県勢が獲得していない『最高得点賞』を取ること。
今日も凛として、弓を射る姿は、とても力強く美しい。



▲第55回太素祭奉納弓道大会の様子
毎年5月4日に開催。県内の高校生から一般まで約200人が出場します

